



こまごまは 今
vol.137

発行 今井町並み保存会
発行日 平成23年11月1日
電話 0744-22-1128
http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp
◇ご意見・ご感想は
今井まちづくりセンターまで

第34回全国町並みゼミ

飛騨市大会参加報告(1)

9月30日(金)～10月2日(日)の三日間、岐阜県飛騨市で「つなごう 歴史の町づくり—飛騨の匠の技と心を伝えよう—」をテーマに第34回全国町並みゼミ飛騨市大会が開催されました。

今回の大会では、分科会は古川町・神岡町・河合町の三地域に会場が設けられていました。今井町並み保存会からは4名が揃いの作業衣姿で参加し、全体会議はともに行動、2日目の分科会ではそれぞれ勉強したい部会に参加、意義ある討議を経験してきました。

この飛騨市大会参加者による手記を、今号と次号の2回にわけて掲載していきます。

第1回は古川町で行われた分科会に参加した若林会長と若井常任理事による報告です。

私が参加した分科会では「町づくりを次の世代へ」というテーマで Jtic Swiss 代表の

山田桂一郎氏、八女の中島孝行氏、地元古川の駒氏がパネラーとなり、それぞれの地域の過去・現在・未来の経験に基づく立派な発表があったが、特に山田氏のスイスの話には思わず聴きこんでしまった。

九州程のこれと言った資源のない小さな国が豊かなのは、と沢山話してくれたが、特に印象に残ったのは、

- ・「これしかない」を「これがある」と置き換えている
- ・そこに行かなければ手に入れないものを作っている
- ・誰もが自慢し、誰もが誇れる町目指しをしている

・町づくりではない、町を育て、人を育てるといった点である。少ないスペースでほんの一部しか書けないが、色々学んできたことを今後の活動に活かしていきます。(若林稔)

第4分科会は「町並みをつくる祭文化」をテーマとし、長い歴史の中で生活の場としての町並みの形成に大きな影響を与えてきた祭文化をいかにして守り受け継いできたのかを議論しました。

大山城下町、佐原、古川の祭文化の話を通して、祭文化を継承していくためには祭人口を増やし、町並みを魅力的なものとし、また祭りを外部に見せる場を提供することが必要だという意見が出ました。祭り文化をきっかけとした町並み保存活動の可能性を感じました。

(若井芳春)

第4回全国町家再生交流会 in 今井町

10月8日・9日の二日間に行われ、「地方都市からの町家再生」つながり、ひろがる町家の暮らし」をテーマに「第4回全国町家再生交流会 in 今井町」が開催されました。このイベントの実行委員会事務局をつとめられた保存会理事の安田昌弘さんにコメントをいただきました。

今回の「第4回全国町家再生交流会 in 今井町」のテーマは実行委員長だったNPO法人今井まちなみ再生ネットワークの上田理事長の思いを込めたものでした。そして開会式では、保存会の若林会長が見事に大きな「絆」の文字を揮毫されました。色々な団体、快く町家を開放していただいた所有者の方々、小学校や公民館、懇親会やお弁当を作っていただいたお店、裏方としてご尽力いただいた方々、関係するすべての人々、そして町の人々が小さいけれど確かにつながることができたのではないかなと思っています。そして、この小さなつながりが、やがて大きく広がり、そして堅い絆となって「まち」を「ひと」を育てていくのだと実感しました。

今井のまちづくりはまだまだこれからだとは思いますが。しかし、今回の交流会を通じて関係する団体同士、関係した人同士の距離が少し縮まったのではないかと感じています。少しずつ、皆さまと一緒に歩みだせる小さな一歩となれば幸いです。感謝。

いまいの人々は

短歌 三首

富麻龍二(大工町)

仕事場に 並ぶ鉋と 鑿^き禿^びびて

職歴六十年の 我を見守る

長次郎 運寿千代鶴 天王山

伴侶の鉋 みんな禿^びびたり

さしもんや 町に残るは 我のみと

今日は明日はと 残り火を焚く

作者より

宿命として継いだ生業。身を粉にして働き続けることが出来た時代に生きさせてもらった幸せに感謝しながら、私の天職はやはりこれだったんだなあとしみじみ感じています。

続・今井町団体紹介

だんじり保存会・子供太鼓の会

会長 福富大介さんに聞く

毎年恒例となりました今井町秋祭りが10月15日(土)・16日(日)の二日間行われました。この祭りのメインともいえるだんじりや子供太鼓(鳴り物)をいつも見守っておら

れる福富さんに今回はお話をうかがいました。今井の祭りといえばだんじり、そしてだんじりといえば鳴り物ということで、昔ながらの子供太鼓を伝統文化として後世へ継承していくために「だんじり保存会」と「子供太鼓の会」が設立されたのはいまから8年前の事だそうです。

いつもはだんじりの簡単なメンテナンスや、月2回集会所で太鼓の練習等を行っています。祭りが近付くとにわかにあわただしくなります。まず一か月前から始まるだんじりの試験曳きでは1号車と2号車を交互に出して曳航手順の最終確認を行います。これと同時に、子供太鼓のほうも週一回以上のペースで開くようにし、前日には必ず仕上げの練習をするそうです。こういった不断の努力の結果、祭りの当日には町の人だけでなく観光に訪れた人たちからも歓声があがっていました。



このほか「だんじり保存会・子供太鼓の会」は町並み散歩のときのだんじり展示、茶粥の呼び込み太鼓等で、私たち今井町並み保存会主催の行事でも大変お世話になっています。このようにいろいろな場面で活躍されていますが、やはり設立されてまだ日が浅いこともありこれからは活動範囲をひろげるために

もっとメンバー(特に若い人)を増やしていきたいと言っておられました。参加を希望される方は連絡していただきたいとのことです。

稱念寺「お寺で」コンサート」開催

11月6日(日)に稱念寺仮本堂で「琵琶・尺八の夕べ」と題しコンサートが開催されます。(料金:200円 休憩時間に抹茶とお菓子の振る舞いがあります) 前売り券は完売したそうですが、当日券も何席かあるそうですので観覧ご希望のかたは稱念寺さんにお問い合わせください。(☎25-5500)

いまい往来

11月13日(日)

霜月祭(御所市)

11月27日(日)

シンポジウム『権原の景観を考える』

(社会福祉総合センター)

※亀井由紀子さんがパネラーです。

編集後記

さまざまなお知らせが発表する個性で町の雰囲気が一変!人の往来も変わります。

今回開催された「HANAART」は住人の我々にも感性の広がりや深みを与えてくれました。

いろいろな人々とのふれあいが生きた町、そして生きている人間に新たな息吹を与え、より生き生きとしたものとなるパワーの源となっていくのでは……